

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回桜学園コミュニティ・スクール協議会			
開催日時		令和6年6月6日（木） 開会 9:30 閉会11:30			
開催場所		つくば市立桜中学校会議室			
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課			
出席者	委員	野村光良、水谷浩子、布施 拓、酒井政彦、後藤美千代 橋本幸雄、久松正樹、吉田 博、白砂統己、石井かおる 中泉正市、天貝 貢、樋口弓子、宮本健次 宮本孝礼、飯岡達郎 桜中学校：校長 小林 力 栄小学校：校長 三輪俊一 九重小学校：校長 小林真理子 栗原小学校：校長 関美智子			
	その他				
	事務局	教育局次長：久保田靖彦 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上和宏 生涯学習推進課地域連携教育指導員：酒井和宏			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人	
非公開の場合はその理由					
議題		1 学校運営の基本方針について 2 熟議「桜学園として、地域とともに児童生徒に身に付けさせたい力は」 3 その他			
会議録署名人				確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 任命書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 会長・副会長の選出 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 熟議「桜学園として、地域とともに児童生徒に身に付けさせたい力は」 (3) その他 7 閉会				

<審議内容>

1 開会

事務局：ただ今から、令和6年度 第1回桜学園コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。

はじめに、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」としております。本日の出席委員数は20名であることから、会議が成立していることをお知らせいたします。

会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として桜中学校先崎教頭先生をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

参加委員：お願いします。

事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。

2 任命書交付、

事務局：始めに「任命書」の交付をいたします。任命書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。

（「任命書」を飯岡達郎委員に交付）

続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。

桜学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として酒井政彦委員、野村光良委員、樋口弓子委員、吉田 博委員を桜学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思います。

（「委嘱状」を酒井政彦委員、野村光良委員、樋口弓子委員、吉田 博委員に交付）

ありがとうございました。お席にお戻りください。

なお、この会議において皆様は、非常勤特別職として任命され任期は1年となります。また、守秘義務等の責務がございます。御留意ください。

皆様の任命書については、机の上でございますので御確認ください。委員の皆様のご自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただきます。御了承ください。

3 挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育局（次長）久保田靖彦が代読いたします。

事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。

本日はお忙しい中、第1回桜学園コミュニティ・スクール協議会に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当協議会の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

本年度、桜学園においては、法に基づいた協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」が本格始動します。昨年度1年間の推進会議を通じて、目指す児童・生徒の姿や、学校と地域が子どもたちのためにどのような協力ができるかを、時間をかけて話し合っていたいただいたことと思いますが、その話し合いを基に、より具体的な議論を深めていただければと思います。

コミュニティ・スクール協議会の設置は、ゴールではなく、スタートラインであり、また、すぐ目に見える成果が出るとも限りません。しかし、委員の皆様のを合わせ、未来を担う子どもたちのために何ができるのかを考えていくことで、必ず、それぞれの学校の実情にふさわしい地域との連携の在り方が生まれてくるものと感じております。

参考として、つくば市のモデル地域として、令和4年度から先行的に「コミュニティ・スクール」を導入した吾妻学園の取組を紹介させていただきます。吾妻学園では、昨年度、地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、「ようこそ先輩」と題する卒業生や地域住民による授業を、キャリア教育の一環として実施しました。既存の枠組みを活用した地域学校協働活動の事例として、参考にしていただければと思います。

複雑化・多様化する社会の中で、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を育成するためには、つくば市教育大綱の理念にもあるように、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支えることが必要不可欠となります。委員の皆様におかれましては、つくば市の教育の充実に向け、今後ともどうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて」ご説明させていただきます。

事務局(村上社会教育主事)：社会教育主事 村上と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配付されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せ

を実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走」というスローガンのもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかをご説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと「地域とともに子どもを育む学校」と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

桜学園は今年度、協議会と言って、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。現在、学校では「いじめ、不登校」「教員の業務量増加」、地域では「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。

これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。

学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことからコミュニティ・スクール協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、コミュニティ・スクール協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まるコミュニティ・スクール協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べるができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員を求める

ことなどです。

④の機能として、学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。

先ほども申し上げましたとおり、桜学園は今年度協議会という法に基づいた本格設置となります。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか、という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映させてほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪及びハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。この地域と学校との連携をスムーズに行うのが、地域学校協働活動推進員の役割です。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときは、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずです。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。これまでは先生が中心となってコーディネートしていたのが、今後は地域の方の力も借りて成立するようにしていきたいと考えています。新しいことをやらなくてもよいのです。運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきかについて地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること

- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる子どもたちのために御協力をよろしくお願いいたします。以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。

5 会長・副会長の選出

事務局：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第5条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。

昨年度、座長・副座長として活動していただいた五頭泰誠委員と久松正樹委員は引き続き協議会委員になっていただいているので会長を五頭委員に、副会長を久松委員にお願いしたいと提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

久松副会長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校より御説明をお願いします。

桜学園長(小林校長)：学園グランドデザイン(学園要覧)の説明

本学園は、知徳体という観点から、学ぶ・人と関わる・心身を鍛えるといった力を育てていきたいと考えています。桜学園では、昨年度から研究指定を受けていて、「自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成」というテーマで、本年度11月に研究発表会を行うことになっています。コミュニティ・スクールの皆様にも時間の都合が付きましたら、生徒の学びの様子、児童の学びの様子を御覧いただけたらと思います。大人は「夢をもち」と簡単に言いますが、今の生徒は夢について語る機会がなかなかない。現実的な話をすると、高校を選択する時にも「こんな風になりたいから、この高校に行きたい」という生徒はあまり多くなく、「ここでいいや」とか「親がここでいいんじゃないと言ったから」とかという生徒も見られます。3小と1中がそれぞれの可能性を広げられるような教育活動を進められるように考えています。

栄小学校(三輪校長)：栄小学校グランドデザインの説明

変化も激しく、価値観も多様化している社会なので、子どもたちが生き抜いていくためには、一人でできることには限界があります。多様な他者と協働する力や状況に応じて自ら判断する力が必要だと考え、学校目標に「認め合い、

学び合い、自分で考え行動する児童の育成」を挙げています。

また、今年度の組織目標としては、子どもたちの生活の基盤となる学校が誰にとっても楽しい居場所になることや学校生活の大半を占める学習活動が子どもたちにとって価値あるものになるようにということで「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造」と「誰もが楽しいと感じられる居場所づくり・絆づくり」を設定し、全職員で取り組んでいます。重点となる項目として7項目挙げているのが特に力を入れているものとしています。1つ目は、「確かな学力を育む教育の推進」を挙げ、さまざまな体験活動や出前授業の実施、教科担任制の導入など多様な学びの機会を提供することで、児童の力を最大限発揮し、伸ばしていけるような授業に努めています。2つ目は、「豊かな心を育む教育の推進」を挙げ、児童が自ら企画する学校行事の実施、先日運動会を実施しましたが、実行委員を立ち上げ、子どもたちがスローガンを立てたり、進行したりして実際に行いました。また、日常生活の諸問題を児童自ら解決しようとするということで、市の方でもルールメイキングを進めているが、そちらを進めながら自治的能力の育成し、夢と感動のある集団づくりに向けて取り組んでいます。3つ目は、「信頼と活力のある学校づくり」にむけて、地域の皆様に本校の取組を知っていただくために学校だよりやHPによる積極的な情報の配信と本校で多くなっている若手教員の指導力の向上に向けた校内研修の充実に力を入れています。

九重小学校（小林校長）：九重小学校グランドデザインの説明

「目指す児童像」は「ここのえ」の頭文字を使い、合い言葉として常に児童が意識し、振り返ることができるようにしています。「こころやさしく友達に」「こころをこめて何事も」「のびのびチャレンジ」「えがおであいさつ」として始業式や終業式などで話すようになっていて、中にはもう言えるようになっていく児童もいます。

本年度の学校経営方針は「探究心をもち、目標に向かってチャレンジできる子どもを育成する学校づくり」です。この方針の達成に向けて組織目標として「自ら学び、他者と対話し他者を認め、考えを深めることができる児童の育成」としました。具体的な施策として、3点を挙げています。本年度は、市の研究指定校となっているため、学園の研修と校内研修を充実させるために、学園の研究テーマに沿いまして、市の方針と市の目標さらに教育活動全体をとおして「深め合う」「認め合う」「鍛え合う」「信頼される学校」「地域と共にある学校」に書かれていることを実行していきます。特に、「地域と共にある学校」においては、地域の皆様の協力を得ながら推進していく上で、コミュニティ・スクールをはじめ、外部人材の活用ということでおやじの会の御協力を得ながら進めているところです。その他、関係機関との連携ということで外部人材、たとえば「つくば科学出前レクチャー」などを積極的に行いながら、地域と共にある学校を推進できればと考えています。

栗原小学校（関校長）：栗原小学校グランドデザインの説明

学校教育目標は、「夢に向かって挑戦し、主体的・自律的に学ぶ栗原っ子の育

成」を掲げています。具体的方策として、下段に示していますが、それらの方策の実践を通して「非認知能力の醸成」にも重きを置きながら、子どもたちへの働きかけ、支援をしているところです。子どもたちの幸せのために、教職員が全力を尽くすのはもちろんですが、教職員の幸せを守ること大切なことだと考えているので、学校の働き方改革も地域の皆様や保護者の皆様にも御協力いただけましたら幸いです。保護者や地域の皆様のお力を賜りながら、子どもたちのよりよい未来のために学教教育活動を展開してまいりたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

桜中学校(小林校長)：桜中学校グランドデザインの説明

本年度の組織目標は、「生徒が自分の成長を実感できる授業」と「一人一人を認め、お互いが成長できる学級」の2つを掲げています。桜中学校は、正直なところを言いますと課題が見えるところがあり、そこに挑戦していきたいと思っています。先ほどから働き方改革も話題に上がっていますが、本校では2つのことに重点を置いています。何かというと最も基本的なところに立ち返って「積極的な生徒指導を行う」、何かが起きてから対応するのではなく、何かが起きる前に関係づくりに重点を置き、起きないための方策を尽くしていきます。そして、教師側が「授業力の向上」を図るという2つのことが実践できれば、自ずと働き方改革につながると職員には伝えています。

今年度は一歩でも桜中の生徒たち自身が「前よりよくなったんじゃない」と思えるような取組をしていきたい考え、「夢・感動・創造への挑戦 桜中 前へ」というスローガンを立てました。子どもたちを幸せにするためには、教職員も幸せでなくてはいけないと思っています。そのために、学校経営のキーワード、これを職員に意識させながら一年間送らせたいなという思いで作っているところです。「一人一人生徒の目線で気付き」「生徒の思いを考え」「生徒のために実行する」合わせて「思いや願いに沿って目を動かし」「生徒の心で親の心で心を動かす」「教師の心で具体的に体を動かす」をなんとなく自然にできるような形でもっていけたら良いなと思いながら一年間やっていきたいと思っています。

(質疑応答)

(橋本幸雄委員)：桜中学校のグランドデザインからは小中連携の記載がなく、小中間のすり合わせはできているのだろうか。

(桜中 小林校長)：小中連携については、小中一貫教育を行ってきているので、すでにベースにあるものだと考えています。教職員も3部会に分かれ、連絡を取り合い活動しているので、もうすでにベースにあります。校長会も、今年度は月1回は集まることになり、より連携を深めています。コミュニティ・スクールも始まり、小中連携のベースのもとに作成したが、文言としてないと寂しいかなと今は感じています。

(橋本幸雄委員)：栗原小学校では、「非認知能力の醸成」とあったが、小学校以上では「認知能力」が大切だと思いますが、どうお考えなのでしょうか。

（栗原小 関校長）：これまでの学校教育はどちらかというと「認知能力」の方
に重きが置かれていました。だからといって「非認知能力」が急に出てきたの
ではなく、これまでの学校教育でも先生方が意識するしないにかかわらず働き
かけてきました。時代の流れとして「非認知能力」が言われるようになってき
ましたが、先生方にはこれまでやってきたようなことを意識して進めてほしい
と話をしています。幼稚園や保育園の育て方を見ていると、「非認知能力」を伸
ばす働きかけをしている。その力を小学校でもさらに伸ばしていくことが大切
だと捉えています。

（橋本幸雄委員）：いじめによる「不登校」「行きしぶり」が全国的な問題にな
っています。原因の追及、話し合いなどはどうなっているだろうか。

（栄小 三輪校長）：「不登校」や「登校しぶり」はどこにでもいます。理由は
難しく、今は親が子離れできないことも非常に大きな要因になっています。
教員だけでは対応できないので、外部の力も借りて対応しています。例えば、
市で整備してくださっているスクールカウンセラーであったりスクールソーシ
ャルワーカーであったり、今年度は市内すべての学校で開設している校内フリ
ースクールであったり、専門の人たちの力をお借りしながら、親・子どもを少
しずつあせらずに変えていくことが、不登校の解消につながっていくのではない
かと考えています。いじめに関しては、永遠の課題というか、生物である以
上いじめについては、難しい問題ではあるが、学校としては楽しく登校して
もらえることが一番なので、早期発見・早期対応のためにアンケートをとったり、
子どもたちとの個別面談を通して関係を密にしたりすることで、素早く情報を
察知することでやっています。一担任では難しいので、今はチームということ
で学年や学校全体で取り組むことで少しでも迅速で適切な対応ができるように
やっています。

（水谷浩子委員）：文部科学省では、いじめ問題の解決の一つとして「スクール
ロイヤー」の活用も進めていると聞いたのですが、法的にいじめと分かっている
ことを子どもたちにきちんと伝えていくことも大事だと考えます。つくば市
ではどのようにお考えですか。

（事務局 久保田次長）：これまでも法務監がいましたが、政策立案の助言が
中心でした。今年度の予算でスクールロイヤー 2 名がついています。学校が気
軽に相談できる体制が今後できてきます。学校に今後詳細についてお知らせで
きると思います。

久松副会長：先生方御説明ありがとうございました。先ほど教育局から説明が
ありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作
成する学校運営の基本方針の承認」があります。委員の皆様にグランドデザイ
ンへの承認をお願いしたいと思います。令和 6 年度学園・各校のグランドデザ
インを御承認いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：（拍手）

久松副会長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容
にて学校運営をお願いいたします。

(2) 熟議

久松副会長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを栗原小学校の佐伯教頭先生にお願いして、よろしいでしょうか。

佐伯教頭：（承認）

久松副会長：お引き受けくださりありがとうございます。では、先生よろしくお願ひいたします。

佐伯教頭：熟議のテーマですが、「桜学園として地域とともに児童生徒に身に付けさせたい力は」というところで話し合いをしていただきます。テーブルに大きい紙があるので、目指す生徒像をもとに、現在の桜学園の児童生徒の様子を考え付箋に書いて、貼っていきます。それが終わりましたら、それらをもとにして児童生徒にこんな力を身に付けさせたいなというものを付箋に書いて、貼っていきます。その後、テーブルごとに出た内容について、全体で共有する形で進めていきます。

・各グループでの熟議20分間

佐伯教頭：熱心な御協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

①A（栄小）グループ

今の子どもたちはそもそも地域のことを知らない。自然や歴史について知らない人が多いので、地域のことを知る機会を増やしたい。

あいさつなど基本的なことができなくなっている。地域としても学校としても基本的なことができるようになってほしいということが願いではないか。

②B（九重小）グループ

夜遅く寝て、朝起きられず時間が守れていない。起きるのが遅いので朝は元気がなく、あいさつもできていない。人間性の向上、自己管理、早く寝て早く起きる、あいさつをきちんとするなど身を付けてほしい。

コミュニケーション能力を身に付け、自分のよさに気づき、我々もよさを認め、さらに伸ばしていくことを実践していく。

チャレンジする気持ちはあると思う。職業などの専門的な知識を学べる場は増えると思う。地域にスポーツ少年団などがあるので、そのようなところも含めて不足しているコミュニケーションを学んだり、チームでやるスポーツの指導をしているが自己優先的な生徒が多いので、協調性を育てたりしていきたい。

中学生については自転車の乗り方がまずかったり、小学生については話に夢中になり横に広がったりと、何が危険でまずいのかを学ぶ場、社会性をもたせる場があれば良い。

③C（栗原小）グループ

地域とのつながりが弱い、普通にあいさつをしても返ってこないという話が出た。ただ黄色い旗を持っている方にはすぐに声をかけたり、家の中から声をかけると返してくれたり犬の散歩中だと声をかけてくれるのは、子どもたちが安全を理解しているのではないか。そこからもっと危機管理が足りてないの

ではないかという話になりました。雨の日に自分で学校へ行く生徒が少ないのではない、すぐ送迎をしてもらってしまうので、どこが危険でどこまでやると転ぶのか分かってないのではない、だから危機管理能力を身に付けさせなくてはならないのではないか。

地域に開かれた学校がうたわれているが、みんなと仲良く、ボランティア協力する機会や参加する子どもが減っているのではないか。

子どもたちの未来を応援できるようなコミュニティ・スクール協議会にしていきたい。

④D（桜中）グループ

小学校区単位での子どもたちの仲が良く、それを越えた関りが少ない。親世代の話になるが、自治体や子ども会に入っていないので、子どもたちも地域に関わることに對して、あまり重要視していない。なので、隣のおじさんとすれ違ってもあいさつしない。お囃子などの活動をされているところもあるが、披露する機会がコロナを経て減ってしまっている。自己肯定感もだんだん失われてきていてそういう体験がなくなってきた。している。

つくばという地域がら、研究所や大学などいろいろあり、子どもたちがどちらかという夢を大きくもちすぎていて、地域に活躍できる人ではなくて、世界へというような夢をもっている。

それらを踏まえて、地域で成功体験などを得られる機会をつくってあげ、まず地域を知る力、地域を愛する力、それぞれの学校を愛するような自校愛などを育んでもらいたい。

久松副会長：発表者の皆さん、ファシリテーターの佐伯教頭先生ありがとうございました。

(3) その他

今回のコミュニティ・スクール協議会は令和6年7月16日(火)9時30分から、会場は栄小学校を予定しています。第3回は令和6年11月27日(水)9時30分から九重小学校、第4回は令和7年2月10日(月)9時30分から栗原小学校で予定しています。

それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

参加委員：（拍手）

事務局：久松副会長、協議進行、ありがとうございました。本日の協議の内容は以上となります。

なお、皆様の机上に「つくば市コミュニティ・スクールガイドライン」を配布しております。こちらは、市の教育委員会からの提案がありお配りしているものです。委員の皆様は年度当初及び年度末にチェック項目を確認していただき該当箇所にチェックをお願いいたします。必ずこうしなければならない、この通りにしなければならない、という性格のものではなく、あくまでポイントとな

る部分を確認していただくものです。また、市や学校にご提出いただくものではありません。各自でお持ちいただければと思います。また、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思っています。委員の皆様、よろしいでしょうか。

以上をもちまして、令和6年度 第1回桜学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度第1回桜学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和6年6月6日(木)

9：30～

場所：桜中学校 会議室

次 第

1 開 会

2 任命書交付

3 挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクール導入について

5 会長・副会長の選出

6 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 学校の教育活動や地域の活動事例の紹介

(3) 熟議 テーマ「桜学園として、地域とともに児童生徒に身に付けさせたい力は」

(4) その他

・コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

7 閉 会

令和6年度 桜学園コミュニティ・スクール協議会

(6月6日開催分) 受付名簿

No.	委嘱の区分	氏 名	よみがな	所属・役職
1	(3) 地域学校協働活動推進員	野村 光良	のむら みつよし	R6桜中P後援会長
2	(1) 地域住民	中埜 貴元	なかの たかゆき	園土地理院勤務
3	(1) 地域住民	水谷 浩子	みずたに ひろこ	元学校評議員
4	(2) 児童・生徒の保護者	五頭 泰誠	ごとう やすまさ	R5桜中PTA会長
5	(2) 児童・生徒の保護者	布施 拓	ふせ ひらく	R6桜中PTA会長
6	(5) 学校長	小林 力	こばやし ちから	R6桜中校長
7	(3) 地域学校協働活動推進員	酒井 政彦	さかい まさひこ	主任児童委員 R5栄小3子 元栄小校長
8	(1) 地域住民	後藤美千代	ごとう みちよ	金田台の生態系を守る会代表
9	(1) 地域住民	橋本 幸雄	はしもと ゆきお	栄幼稚園園長
10	(4) 学識経験者	久松 正樹	ひさまつ まさき	元栄小学校校長
11	(5) 学校長	三輪 俊一	みわ しゅんいち	栄小学校校長
12	(3) 地域学校協働活動推進員	吉田 博	よしだ ひろし	PTA会長
13	(1) 地域住民	白砂 統己	しらすな もとき	おやじの会代表
14	(1) 地域住民	細田 潤	ほそだ じゅん	元学校評議員
15	(1) 地域住民	片岡 均	かたおか ひとし	元学校評議員
16	(1) 地域住民	石井かおる	いしい かおる	元PTA会長
17	(5) 学校長	小林真理子	こばやし まりこ	九重小校長
18	(1) 地域住民	中泉 正市	なかいずみ まさいち	元PTA会長
19	(1) 地域住民	天貝 貢	あまがい みつぎ	元学校評議員
20	(3) 地域学校協働活動推進員	樋口 弓子	ひぐち ゆみこ	元学校評議員
21	(1) 地域住民	宮本 健次	みやもと けんじ	元学校評議員
22	(1) 地域住民	宮本 孝礼	みやもと たかひろ	元学校評議員
23	(1) 地域住民	飯岡 達郎	いいおか たつろう	PTA会長
24	(5) 学校長	関 美智子	せき みちこ	栗原小校長

「生きる力」の育成

協働的な
学び

人との
かかわり

地域と
ともに育む

共に学ぶ



学び合い・教え合い



学び合い・教え合い

共に磨く



桜樹音楽祭



学園あいさつ運動

共に鍛える



桜中体育祭



居住地交流



桜学園

学園要覧 令和6年度

夢を持ち、自立して社会に貢献できる児童・生徒の育成



栄小学校



九重小学校



桜中学校



栗原小学校

桜学園 つくば市立

栄小学校 つくば市金田5-4 ㊦305-0018

〈HP〉<http://www.tsukuba.ed.jp/~sakae/>

九重小学校 つくば市上ノ室2-126 ㊦305-0023

〈HP〉<http://www.tsukuba.ed.jp/~kokonoe/>

栗原小学校 つくば市栗原2-018 ㊦305-0001

〈HP〉<http://www.tsukuba.ed.jp/~kurihara/>

桜中学校 つくば市さくらの森3-2 ㊦305-0019

〈HP〉<http://www.tsukuba.ed.jp/~sakura/>

TEL029-857-2037 FAX029-857-6179

〈E-mail〉 sakae01@tkb.ed.jp

TEL029-857-2036 FAX029-857-6209

〈E-mail〉 koko01@tkb.ed.jp

TEL029-857-2049 FAX029-857-6315

〈E-mail〉 kuri01@tkb.ed.jp

TEL029-857-2038 FAX029-857-6342

〈E-mail〉 sakura01@tkb.ed.jp

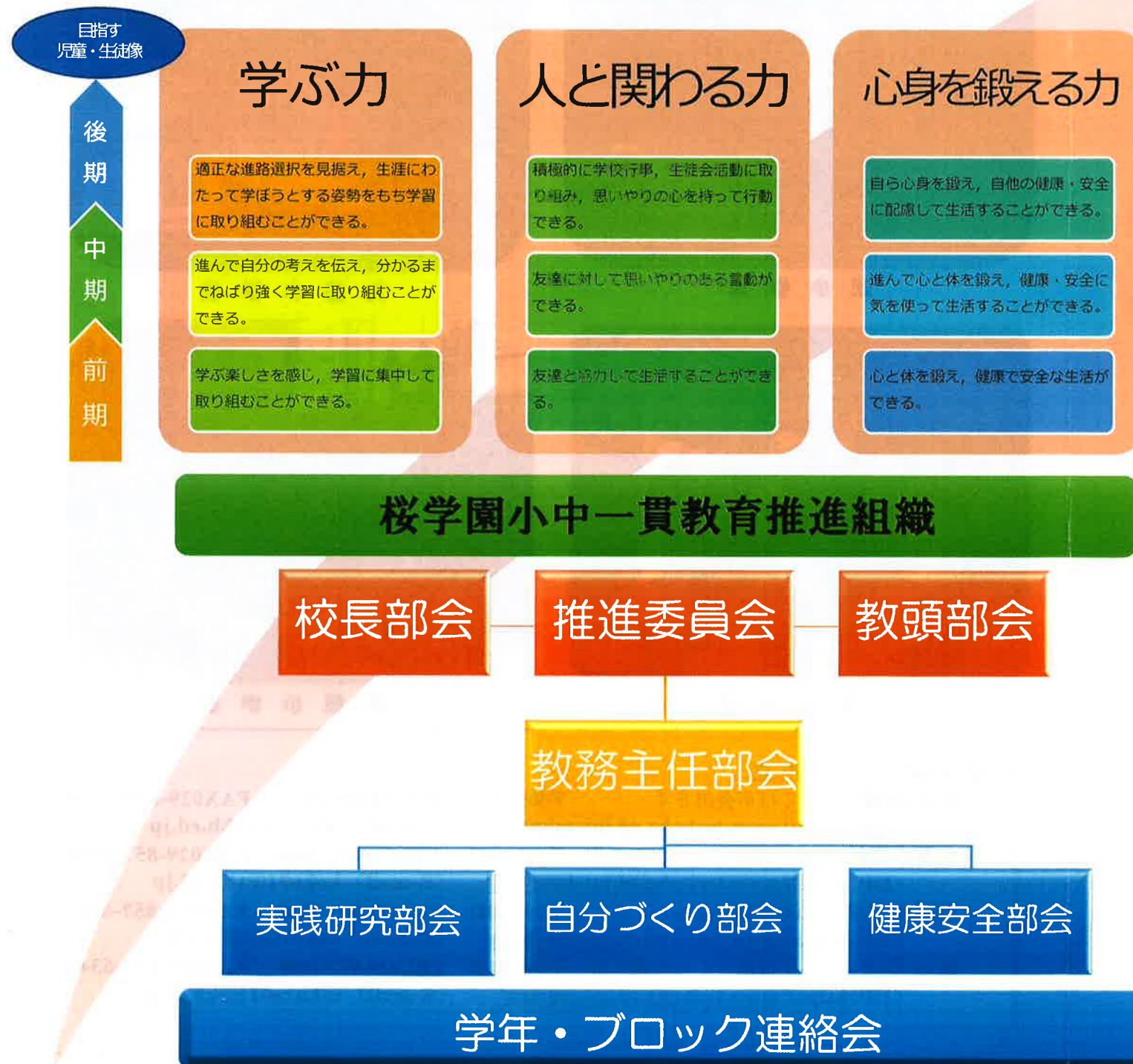
桜学園が進める小中一貫教育

つくば市教育の
基本理念

夢に向かってよりよい未来をひらく
「学び」の実現

輝く未来

研究テーマ「自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成」



具体的な取組

実践研究部会

- ☆主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して
- ☆「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践
- ☆「学習系統表」の活用
- ☆「学習の手引き」の活用
- ☆「UDの視点による授業改善」マニュアル活用
- ☆つくばスタイル科と各教科・領域を関連させた授業実践(キャリアパスポートの活用)
- ☆小小、小中連携した学園研修
- ☆9年間を見通した桜学園児童・生徒の学びの姿の共有
- ☆小中連携豊かな心育成事業
- ☆発信型プロジェクト学習
- ☆考えを深め合う活動



小中連携
(豊かな心育成事業)

自分づくり部会

- ☆桜学園共通 生活目標の実践
- ☆生徒指導部会での情報交換
- ☆小中連絡会(6年・7年、6年・9年)
- ☆桜学園マナーアップ運動
- ☆桜学園いじめゼロフォーラム
- ☆みんなのやくそくファイブの実践
- ☆生徒指導系統表の活用



あいさつ運動(小中合同)

健康安全部会

- ☆桜学園共通 健康安全目標の実践
- ☆地域防災訓練の実施(引き渡し訓練、桜学園防災連絡会議)
- ☆地域の人材を生かした防災
- ☆9年間を見通した体力づくり(体力テストの分析と体力向上の共通実践)



学園防災連絡会議

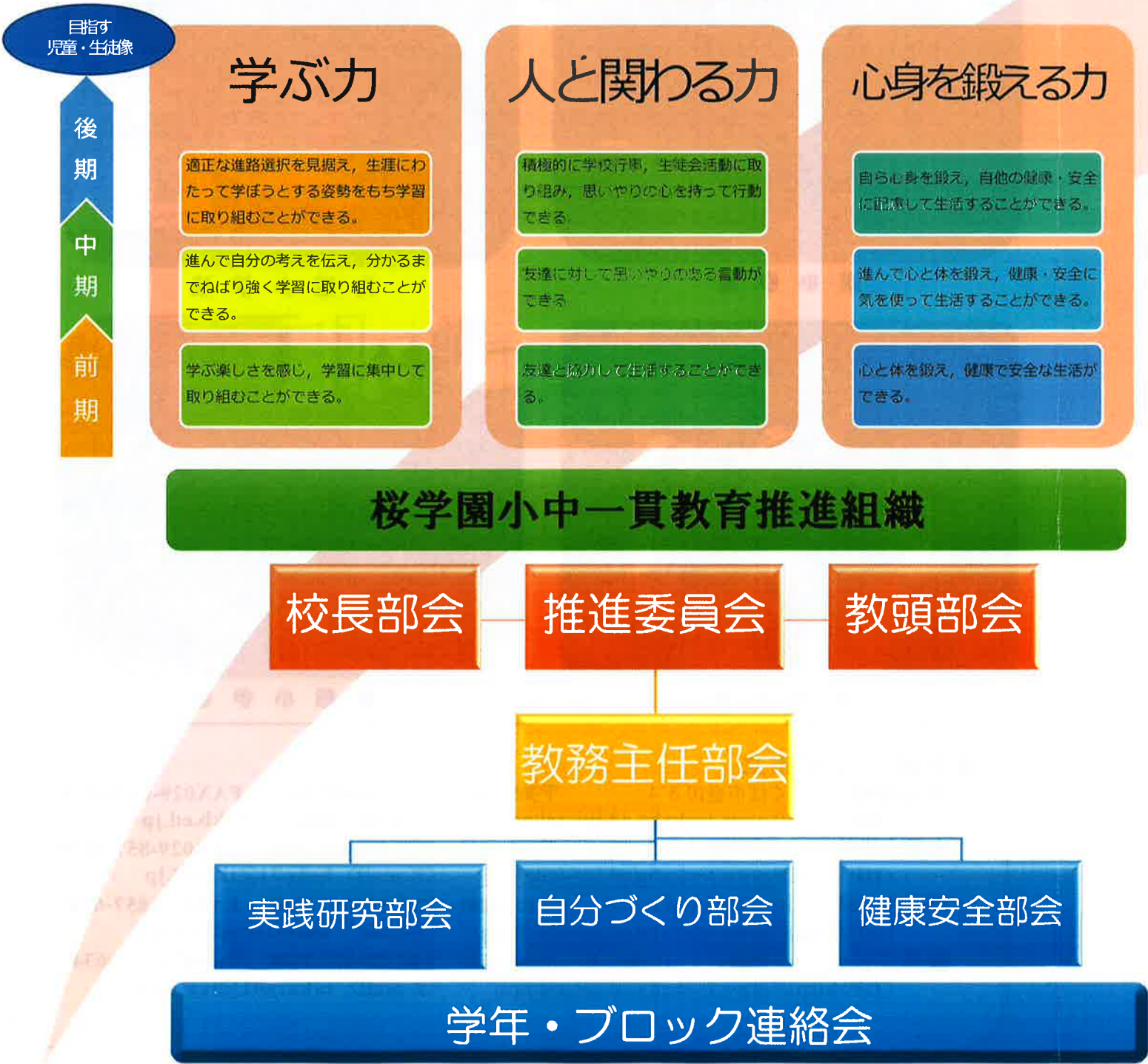
桜学園が進める小中一貫教育

つくば市教育の
基本理念

夢に向かってよい未来をひらく
「学び」の実現

輝く未来

研究テーマ「自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成」



具体的な取組

実践研究部会	☆主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して ☆「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践 ☆「学習系統表」の活用 ☆「学習の手引き」の活用 ☆「UDの視点による授業改善」マニュアル活用 ☆つくばスタイル科と各教科・領域を関連させた授業実践(キャリアパスポートの活用) ☆小小、小中連携した学園研修 ☆9年間を見通した桜学園児童・生徒の学びの姿の共有 ☆小中連携豊かな心育成事業 ☆発信型プロジェクト学習 ☆考えを深め合う活動	 小中連携 (豊かな心育成事業)
	自分づくり部会	☆桜学園共通 生活目標の実践 ☆生徒指導部会での情報交換 ☆小中連絡会(6年・7年, 6年・9年) ☆桜学園マナーアップ運動 ☆桜学園いじめゼロフォーラム ☆みんなのやくそくファイブの実践 ☆生徒指導系統表の活用
健康安全部会	☆桜学園共通 健康安全目標の実践 ☆地域防災訓練の実施(引き渡し訓練, 桜学園防災連絡会議) ☆地域の人材を生かした防災 ☆9年間を見通した体力づくり(体力テストの分析と体力向上の共通実践)	 学園防災連絡会議

令和6年度 桜中学校グランドデザイン

本県の教育目標

- ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

【学園教育目標】

夢をもち、自立して社会に貢献する児童・生徒の育成

【本校教育目標】

大志と信念をもち やさしく たくましく
しなやかに生きる生徒の育成

本市の目指す学園・学校像

- みんなが幸せを実感できる学園・学校
- 「教え」から『学び』へ
 - 「管理」から『自己決定』へ
 - 「認知能力偏重」から
『非認知能力の再認識』へ

めざす生徒像

- ・自己の可能性に意欲的に挑む生徒
- ・心豊かで誠実に行動する生徒
- ・健康で活力に満ちた生徒

めざす学校像

- ・生徒にとって学びがいのある学校
- ・教師にとってやりがいのある学校
- ・保護者や地域から応援してもらえる学校

めざす教師像

- ・生徒に寄り添って歩める教師
- ・指導力と実践力のある教師
- ・保護者や地域の願いを大事にする教師

経営の理念

生徒に「夢」を 保護者に「希望」を 教師に「信頼」を

経営の基調

ミッション パッション コミュニケーション

組織目標

- 生徒が自分の成長を実感できる授業（授業力磨き）
- 一人一人を認め、お互いが成長できる学級（学級力向上）

共に 学ぶ

確かな学力の向上

- ◆能力や個に応じたきめ細やかな指導の工夫改善
- ・生徒が自分の成長を実感できる授業
- ・探究型及び課題解決型授業の充実
- ・ICT機器を活用した個別最適な学び
- ・対話を通じて養う合意的形成力
- ・「考えさせられる授業」から「考える授業」へ
- ・外部人材や地域資源の活用
- ・系統性を生かしたキャリア形成

共に 磨く

豊かな人間性の育成

- ◆生活を自分たちで改善しようとする意識や態度
- ・互いに認め合い、支え合い、高め合う学級経営
- ・「考え、議論する」道徳授業の積み重ね
- ・自治的能力や社会力の育成
- ・教育的ニーズを意識した特別支援教育
- ・人権意識を育てる環境整備
- ・生徒会、実行委員会制度の進化と充実
- ・クリティカルな視点から生まれる改善策

共に 鍛える

健康増進と体力の向上

- ◆自分の命を自分で守る積極的な取組
- ・積極的な生徒指導の推進
- ・自己判断力を育てる防災教育
- ・『命』を大切に教育
- ・SOSの出し方に関する教育
- ・共に見て、触って、揺らして確認する安全点検
- ・不登校生徒の居場所の確保（校内フリースクール）
- ・食育の推進（重要性の啓発活動）
- ・部活動の充実
- ・災害等への対応能力の育成
- ・緊急時に備えた避難所設営経験

共に 育てる

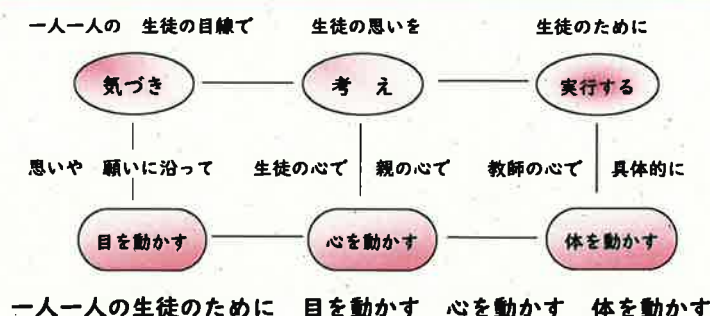
家庭・地域との連携

- ◆信頼と活力を育む開かれた学校づくり
- ・コミュニティ・スクールの実施
- ・地域と共に歩む桜中の創造
- ・地域の教育資源の積極的な発掘と活用
- ・防災、減災を意識した地域の灯台としての役割
- ・HPや各種便りの充実
- ・9年間を意識した規範意識の醸成（ルールメイク）
- ・いじめゼロフォーラムの公開
- ・地域総合防災訓練の実施
- ・職場体験学習での地域連携

学び高め合う教師集団

- ◆使命感を自覚し、専門性と指導力の向上
- ・授業力の向上に努める授業研究とOJT研修の推進
- ・Sルーム、SC、SSW等との緊密な連携
- ・チーム桜を意識した校務の運営
- ・コンプライアンス意識の高揚につながる同僚性の構築
- ・外部研修への積極的な参加

学校経営のキーワード



働き方改革の推進

- ◆目的の再認識とタイムマネジメント意識の向上
- ・積極的な生徒指導
- ・授業力の向上
- ・地域と学校の協働活動による部活動
- ・新たに創造する桜中型カリキュラムマネジメント
- ・対時間効果と生徒目線を意識した業務内容の改善

令和6年度 教育活動スローガン

夢・感動・創造への挑戦 桜中 前へ

一人一人が 大きく『夢』を描き 多くの『感動』を味わい 『笑顔』で生活できる学校

学園研究テーマ

自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成
～ 主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して ～

令和6年度 つくば市立栄小学校 グランドデザイン

本県の教育目標

- ・ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- ・じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- ・郷土を愛し協力しあう心を育てる



桜学園教育目標

夢をもち、自立して社会に貢献する児童・生徒の育成



学校教育目標

認め合い、学び合い、自分で考え行動する児童の育成

つくば市教育大綱

- ・「教え」から「学び」へ
- ・「管理」から「自己決定」へ
- ・「認知能力偏重」から「非認知能力の再認識」へ

学校教育推進の柱

- 1 確かな学力を育む教育の推進
- 2 豊かな心を育む教育の推進
- 3 健やかな体を育む教育の推進
- 4 時代の変化に対応できる教育の推進
- 5 自立と社会参加に向けた特別支援教育の推進

目指す児童像

進んで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子

組織目標

- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造
- 誰もが楽しいと感じる居場所づくり・絆づくり

つくば市の目指す 学園・学校像

みんなが幸せを実感できる
学園・学校

～ 自己実現できる学校・
みんなで支えあい
みんなが生き生きとした学校～

目指す教師像

- 自らの人間性・社会性・専門性を高めていく教師
- 児童・保護者・地域から信頼され慕われる教師
- 児童の可能性を引き出すことができる教師

学校経営理念

「子どもも教師も個性を生かし、
共に学び続けることで互いに成長できる学校」

- 誰もが自分の良さを発揮し、活躍できる場の創出
- 自ら学ぶ意欲を高め、生きる力の育成を図る豊かな学びの展開
- Challenge（挑戦）& Change（変化）の具現化

目指す学校像

- 児童が毎日楽しいと感じる学校
- 教職員が働きがいを実感できる学校
- 保護者や地域から信頼される学校

学園研究テーマ

自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成～主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して～

学びのプロジェクト 学びあいプラン

＜確かな学力を育む教育の推進＞

- 児童の力を最大限に発揮し、伸ばしていく授業の展開
- ・児童の主体的な学びを促す多様な授業の提供や教科担任制の推進
- ・自律的な学習者の育成を目指した「教え」から「学び」への転換
- ・児童の理解を高め、思考を深める効果的な ICT 活用

【数値目標】

「確かな学力」等の学校評価アンケートで肯定的な評価の割合 80%

生徒指導の充実プロジェクト ふれ合いプラン

＜豊かな心を育む教育の推進＞

- 夢・感動のある楽しい集団づくり
- ・「居場所づくり」、「絆づくり」を目指した学級経営の推進
- ・児童の主体的活動を引き出すための児童主役の学校行事の実施
- ・思いやりの心を育てる「特別の教科道徳」の指導の工夫
- ・日常生活の諸問題を自ら解決しようとする自治的能力の育成（ルールメイキング）

【数値目標】

「豊かな心」等の学校評価アンケートで肯定的な評価の割合 80%

安心・安全プロジェクト 健えあいプラン

＜健やかな体を育む教育の推進＞

- 活力ある生活を送るための健康・体力づくり
- ・基礎体力アップを目指した運動習慣づくり
- ・運動能力向上に向けた体育科学学習指導の工夫
- ・心身の健康維持に向けた自己管理能力の育成

【数値目標】

「進んで体力づくり」をしていると答える児童 80%

開かれた学校づくりプロジェクト 磨きあいプラン

＜桜学園小中一貫教育の推進＞

- 小中連携
- ・研究発表会に向けた授業研究
- ・クリーン作戦、マナーアップ運動など桜学園共同の特別活動の充実
- ・防災意識の高揚のため桜学園合同の地域防災訓練の実施
- 保幼小連携
- ・相互授業参観等の定期的な実施
- ・保幼小連絡会議の実施

【数値目標】

「小中一貫教育」等の学校評価アンケートで肯定的な評価の割合 80%

安全で安心な学校

＜安心・安全な学校環境づくり＞

- ・防犯諸団体等との連携と保護者への情報提供
- ・危機管理マニュアル点検と全職員による共通理解
- ・保護者や地域と連携した学園合同防災訓練の実施
- ・安全点検の実施と速やかな対応
- ・児童の危機回避能力の育成
- ・相談体制・支援体制の充実

【数値目標】

「けが等に気を付けて自分でよく考えて行動している」と答える児童 80%

信頼と活力のある学校

＜信頼と活力ある学校づくり＞

- ・学校ホームページ等による積極的な情報発信
- ・学校評価の積極的な活用
- ・コミュニティ・スクールの積極的な推進

＜教職員の資質の向上＞

- ・教育公務員としてのコンプライアンスの遵守
- ・授業力の向上と将来を見通した自己研鑽の推奨

【数値目標】

教育活動のねらいや児童の様子が保護者によく伝わっているという評価の割合が 90%

教職員のワークライフバランス

＜働き方改革・メンタルヘルスケアの推進＞

- ・週時程の見直し
- ・業務内容や行事内容の精選・見直し
- ・校務のデジタル化の推進
- ・教員評価面談の充実

【数値目標】

勤務時間外在校等時間の月 45 時間以内、年間 360 時間以内

令和6年度 桜学園つくば市立九重小学校グランドデザイン

【茨城県教育の目標】
ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し 協力しあう心を育てる

【校訓】
まじめになろう 人につくそう 正しく強くなろう

【学園教育目標】
夢をもち、自立して社会に貢献できる
児童・生徒の育成

【つくば市の目指す学園・学校像】
みんなが幸せを実感できる学園・学校
～自己実現できる学校・みんなで支え
合い、みんなが生き生きした学校～
○教えから学びへ
○管理から自己決定へ
○認知能力偏重から
非認知能力の再認識へ

【学校教育目標】
夢や目標に向かって 自ら学び、力を合わせ、前向きに取り組む児童の育成

【目指す学校像】
・子供にとって幸せを実感できる学校
・教師にとって 能力が発揮できる学校
・家庭や地域に信頼され 開かれた学校

【目指す児童像】
こ こころやさしく友達に
こ こころをこめて何事も
の のびのびチャレンジ
え えがおであいさつ

【目指す教師像】
・児童一人一人を大切にする教師
・能力を十分に発揮する教師
・チームで取り組む教師

【学校経営方針】
「探究心をもち、目標に向かってチャレンジできる子どもを育成する学校づくり」
○児童一人一人が、探究心をもち、楽しく充実した生活を送れる学校
○教職員の能力を十分に発揮し、チームとして取り組める学校
○保護者・地域との連携・協働による地域とともにある学校

【組織目標】
「自ら学び、他者と対話し他者を認め、考えを深めることができる児童の育成」
○自ら学ぶための探究的な学びと単元構成・課題設定（問い）・振り返りの工夫
○考えを深めるための対話的な学び・協働的な学びとICTの効果的な活用
○一人一人が自己選択・自己決定できる個別最適な学び

深め合う

- 主体的に学ぶための授業改善
- ・探究的な学びの単元構成の工夫
- ・課題設定と振り返りの工夫
- 考えを深めるための授業改善
- ・対話的な学びの設定
- ・協働的な学びの設定
- 個別最適な学び
- ・ICTの効果的な活用
- ・教科担任制（中・高学年）

考えを伝え深め合う授業実践
【達成目標】学校評価肯定意見85%

認め合う

- 自己肯定感・自己有用感の向上
- ・縦割り班活動「兄弟遊び」
- ・縦割り班清掃
- ・係・委員会の自発的活動の充実
- 他者との対話による理解
- ・「九重トークタイム」の実施
- ・「いじめ防止フォーラム」実施
- 道徳教育の充実
- ・「考え・議論する道徳」の実施

学校が楽しい・友達と仲が良い
【達成目標】学校評価肯定意見90%

鍛え合う

- 健康・安全に関する自己管理能力の育成
- ・防災訓練の充実
- ・情報モラル・薬物乱用防止教室
- 健やかな身体づくり
- ・体育の時間の活動時間の充実
- ・外遊びの奨励
- ・食に関する教育の充実
- ・「ゆったりマラソン」の実施

自分の健康・安全を考えて生活
【達成目標】学校評価肯定意見85%

信頼される学校

- 安全・安心学校作り
- ・教職員の危機管理の徹底と共通理解・チーム対応
- ・児童一人一人の心の居場所となる学校・学級づくり
- ・地域や学園と連携した学園・学校防災
- 教職員の資質向上
- ・働き方改革推進のための日課の工夫と5時間授業（教材研究と子どもと向き合う時間の確保）
- ・コンプライアンスの確保とメンタルヘルス（教職員との面談の設定）
- ・学園研修・校内研修の充実（R6：市研究指定校）

信頼される学校づくり【達成目標】学校評価肯定意見85%

地域と共にある学校

- 積極的な情報発信
- ・HP・メール配信の充実、学校評価の有効活用
- 桜学園コミュニティ・スクール
- ・学園・学校の目標の共有化
- ・地域人材の活用（おやじの会、読み聞かせ、保護者ボランティア等）
- 関係機関との連携
- ・SC、SSWの活用
- 外部人材の活用
- ・つくば科学出前レクチャー、市立図書館、租税教室等

地域と連携・開かれた学校づくり【達成目標】学校評価肯定意見85%

【学園研究テーマ】
自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成
～主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して～

令和6年度 桜学園つくば市立九重小学校グランドデザイン

【茨城県教育の目標】
ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し 協力しあう心を育てる

【校訓】
まじめになろう 人につくそう 正しく強くなろう

【学園教育目標】
夢をもち、自立して社会に貢献できる
児童・生徒の育成

【つくば市の目指す学園・学校像】
みんなが幸せを実感できる学園・学校
～自己実現できる学校・みんなで支え
合い、みんなが生き生きした学校～
○教えから学びへ
○管理から自己決定へ
○認知能力偏重から
非認知能力の再認識へ

【学校教育目標】
夢や目標に向かって 自ら学び、力を合わせ、前向きに取り組む児童の育成

【目指す学校像】
・子供にとって幸せを実感できる学校
・教師にとって 能力が発揮できる学校
・家庭や地域に信頼され 開かれた学校

【目指す児童像】
こ ところやさしく友達に
こ ところをこめて何事も
の のびのびチャレンジ
え えがおであいさつ

【目指す教師像】
・児童一人一人を大切にする教師
・能力を十分に発揮する教師
・チームで取り組む教師

【学校経営方針】
「探究心をもち、目標に向かってチャレンジできる子どもを育成する学校づくり」
○児童一人一人が、探究心をもち、楽しく充実した生活を送れる学校
○教職員の能力を十分に発揮し、チームとして取り組める学校
○保護者・地域との連携・協働による地域とともにある学校

【組織目標】
「自ら学び、他者と対話し他者を認め、考えを深めることができる児童の育成」
○自ら学ぶための探究的な学びと単元構成・課題設定（問い）・振り返りの工夫
○考えを深めるための対話的な学び・協働的な学びとICTの効果的な活用
○一人一人が自己選択・自己決定できる個別最適な学び

深め合う

- 主体的に学ぶための授業改善
・探究的な学びの単元構成の工夫
・課題設定と振り返りの工夫
- 考えを深めるための授業改善
・対話的な学びの設定
・協働的な学びの設定
- 個別最適な学び
・ICTの効果的な活用
・教科担任制（中・高学年）

考えを伝え深め合う授業実践
【達成目標】学校評価肯定意見85%

認め合う

- 自己肯定感・自己有用感の向上
・縦割り班活動「兄弟遊び」
・縦割り班清掃
・係・委員会の自発的活動の充実
- 他者との対話による理解
・「九重トークタイム」の実施
・「いじめ防止フォーラム」実施
- 道徳教育の充実
・「考え・議論する道徳」の実施

学校が楽しい・友達と仲が良い
【達成目標】学校評価肯定意見90%

鍛え合う

- 健康・安全に関する自己管理能力の育成
・防災訓練の充実
・情報モラル・薬物乱用防止教室
- 健やかな身体づくり
・体育の時間の活動時間の充実
・外遊びの奨励
・食に関する教育の充実
・「ゆったりマラソン」の実施

自分の健康・安全を考えて生活
【達成目標】学校評価肯定意見85%

信頼される学校

- 安全・安心学校作り
・教職員の危機管理の徹底と共通理解・チーム対応
・児童一人一人の心の居場所となる学校・学級づくり
・地域や学園と連携した学園・学校防災
- 教職員の資質向上
・働き方改革推進のための日課の工夫と5時間授業
（教材研究と子どもと向き合う時間の確保）
・コンプライアンスの確保とメンタルヘルス
（教職員との面談の設定）
・学園研修・校内研修の充実（R6：市研究指定校）

信頼される学校づくり【達成目標】学校評価肯定意見85%

地域と共にある学校

- 積極的な情報発信
・HP・メール配信の充実、学校評価の有効活用
- 桜学園コミュニティ・スクール
・学園・学校の目標の共有化
・地域人材の活用
（おやじの会、読み聞かせ、保護者ボランティア等）
- 関係機関との連携
SC、SSWの活用
- 外部人材の活用
・つくば科学出前レクチャー、市立図書館、租税教室等

地域と連携・開かれた学校づくり【達成目標】学校評価肯定意見85%

【学園研究テーマ】
自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成
～主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して～



令和6年度 桜学園つくば市立栗原小学校グランドデザイン



本県教育の目標

ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し
協力しあう心を育てる

桜学園目標

夢を持ち、自立して社会に貢献できる児童生徒の育成

つくば市の目指す学園・学校像

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園
～自己実現できる学校・みんなで支え合い、
みんなが生き生きとした学校～

【桜学園小中一貫教育の推進】つくば市教育委員会研究指定 桜学園研究発表会(令和6年11月予定)

◎実践研究部会(桜中・栄小) ◎保健安全部会(栗原小) ◎自分づくり部会(九重小)

【桜学園研究主題】

「自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成」～主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して～

学校教育目標

夢に向かって挑戦し、主体的・自律的に学ぶ栗原っ子の育成
～児童が主体的に取り組む教育活動の工夫・改善を通して～

学校経営方針

心身ともにたくましく、一人一人が幸せを実感できる学校
学校経営の3本柱「命・あいさつ・学び(授業)」

【学校としての組織目標】

- ・「教えから学びへ」
児童が主体的に学べる学習活動の工夫を通し、学力の向上を図る。
- ・「管理から自己決定へ」
考えを表現し、自己決定する場を増やすことで自己有用感・自己肯定感を高める。

目指す学校像

- ・笑顔あふれる学校
- ・誰からも信頼される学校
- ・安全で安心して過ごせる学校
- ・地域とともにある学校

目指す児童像

- ・(かしこい子) よく考え、進んで学ぶ子
- ・(やさしい子) 礼儀正しく、思いやりのある子
- ・(たくましい子) 心身ともに健康で、粘り強くやりぬく子

目指す教師像

- ・明るく、元氣な笑顔で向き合える教師
- ・子どものよさを生かし、伸ばせる教師
- ・体験、知識が豊富な教師
- ・新たなことに挑戦し、資質や指導力の向上に努める教師

非認知能力の醸成

《知育プラン》

◇◇かしこい子の育成◇◇

【施策】

- ・見通しをもった単元計画による学習の展開
- ・児童の主体的な学びを促す課題設定の工夫
- ・自ら意欲的に学ぶ学習形態の工夫
- ・自分の学習を探究するための自主学習
- ・ICT 機器を活用した学習活動の工夫
- ・読書活動の推進

【数値目標】

- ・県学力診断テスト 県比+2
- ・みんなにすすめたい1冊の本推進事業
50冊 90%



《徳育プラン》

◇◇やさしい子の育成◇◇

【施策】

- ・道徳科の学びを実践する体験活動の充実
- ・自主的な活動を促す会社活動やルールメイキングの実践
- ・一人一人の個性を大切に特別支援教育の充実
- ・学校生活アンケート、教育相談の実施

【数値目標】

- ・学校が楽しい 90%
- ・自分を生かす場がある
80%



《体育プラン》

◇◇たくましい子の育成◇◇

【施策】

- ・体育授業の創意工夫と外遊びの奨励
- ・動画教材や GIGA 端末などのモデル学習
- ・けが防止のための学習教室の実施
- ・体力向上プロジェクトの実施
- ・生活リズムの徹底
- ・交通安全教室、防災訓練等の実施

【数値目標】

- ・体力テスト A+B 50%
- ・早寝早起き朝ごはん 95%



《家庭・地域・学園との連携》

- ・積極的な情報収集、情報発信
- ・地域の人的・物的資源の活用
- ・学校評価の充実・活用

【家庭】 健やかな心身を育む場

あいさつ、手伝い、家庭学習の習慣化

【地域】 地域の子どもを育てる場

子供会、地域行事、地域の安全

【学園】 小・小・小中間の連携・協力

保幼との連携・接続推進



《安全・安心な学校づくり》

- ・危機管理マニュアルの周知と共通理解
- ・安全点検の計画的実施と速やかな修繕
- ・校舎内外巡視、児童看護の徹底
- ・交通安全：歩行、横断、ヘルメット
- ・生活安全：安全な過ごし方の指導
- ・災害安全：防災訓練、危機管理能力の育成
- ・登下校時の見守りの協力依頼
- ・学園防災連絡会議、引き渡し訓練の実施

《教職員の資質能力向上》

- ・研究主題に沿った授業研究を通じた授業改善・授業力向上
- ・児童の自己肯定感を高める学級経営
- ・研修や各種研究会等への積極的参加による力量形成
- ・コンプライアンス遵守(教育公務員としての自覚)
- ・働き方改革の推進
- ・ラインによる教職員のメンタルヘルスケア(目標:在校等時間月 45 時間以内)

令和6年度 桜中学校グランドデザイン

本県の教育目標

- ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

【学園教育目標】

夢をもち、自立して社会に貢献する児童・生徒の育成

【本校教育目標】

大志と信念をもち やさしく たくましく
しなやかに生きる生徒の育成

本市の目指す学園・学校像

- みんなが幸せを実感できる学園・学校
- 「教え」から『学び』へ
 - 「管理」から『自己決定』へ
 - 「認知能力偏重」から
『非認知能力の再認識』へ

めざす生徒像

- ・自己の可能性に意欲的に挑む生徒
- ・心豊かで誠実に行動する生徒
- ・健康で活力に満ちた生徒

めざす学校像

- ・生徒にとって学びがいのある学校
- ・教師にとってやりがいのある学校
- ・保護者や地域から応援してもらえる学校

めざす教師像

- ・生徒に寄り添って歩める教師
- ・指導力と実践力のある教師
- ・保護者や地域の願いを大事にする教師

経営の理念

生徒に「夢」を 保護者に「希望」を 教師に「信頼」を

経営の基調

ミッション パッション コミュニケーション

組織目標

- 生徒が自分の成長を実感できる授業（授業力磨き）
- 一人一人を認め、お互いが成長できる学級（学級力向上）

共に 学ぶ

確かな学力の向上

- ◆能力や個に応じたきめ細やかな指導の工夫改善
- ・生徒が自分の成長を実感できる授業
- ・探究型及び課題解決型授業の充実
- ・ICT機器を活用した個別最適な学び
- ・対話を通じて養う合意的形成力
- ・「考えさせられる授業」から「考える授業」へ
- ・外部人材や地域資源の活用
- ・系統性を生かしたキャリア形成

共に 磨く

豊かな人間性の育成

- ◆生活を自分たちで改善しようとする意識や態度
- ・互いに認め合い、支え合い、高め合う学級経営
- ・「考え、議論する」道徳授業の積み重ね
- ・自治的能力や社会力の育成
- ・教育的ニーズを意識した特別支援教育
- ・人権意識を育てる環境整備
- ・生徒会、実行委員会制度の進化と充実
- ・クリティカルな視点から生まれる改善策

共に 鍛える

健康増進と体力の向上

- ◆自分の命を自分で守る積極的な取組
- ・積極的な生徒指導の推進
- ・自己判断力を育てる防災教育
- ・『命』を大切にする教育
- ・SOSの出し方に関する教育
- ・共に見て、触って、揺らして確認する安全点検
- ・不登校生徒の居場所の確保（校内フリースクール）
- ・食育の推進（重要性の啓発活動）
- ・部活動の充実
- ・災害等への対応能力の育成
- ・緊急時に備えた避難所設営経験

共に 育てる

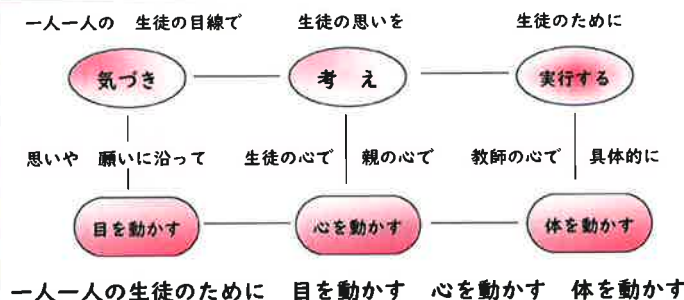
家庭・地域との連携

- ◆信頼と活力を育む開かれた学校づくり
- ・コミュニティ・スクールの実施
- ・地域と共に歩む桜中の創造
- ・地域の教育資源の積極的な発掘と活用
- ・防災、減災を意識した地域の灯台としての役割
- ・HPや各種便りの充実
- ・9年間を意識した規範意識の醸成（ルールメイク）
- ・いじめゼロフォーラムの公開
- ・地域総合防災訓練の実施
- ・職場体験学習での地域連携

学び高め合う教師集団

- ◆使命感を自覚し、専門性と指導力の向上
- ・授業力の向上に努める授業研究とOJT研修の推進
- ・Sルーム、SC、SSW等との緊密な連携
- ・チーム桜を意識した校務の運営
- ・コンプライアンス意識の高揚につながる同僚性の構築
- ・外部研修への積極的な参加

学校経営のキーワード



働き方改革の推進

- ◆目的の再認識とタイムマネジメント意識の向上
- ・積極的な生徒指導
- ・授業力の向上
- ・地域と学校の協働活動による部活動
- ・新たに創造する桜中型カリキュラムマネジメント
- ・対時間効果と生徒目線を意識した業務内容の改善

令和6年度 教育活動スローガン

夢・感動・創造への挑戦 桜中 前へ

一人一人が 大きく『夢』を描き 多くの『感動』を味わい 『笑顔』で生活できる学校

学園研究テーマ

自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成
～ 主体的に学ぶための課題設定と単元構成の工夫を通して ～